

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろかみ学園児童発達支援センター（保育所訪問）		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 10日	～	令和 8年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	140	(回答者数) 89
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 10日	～	令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○訪問先施設評価実施期間	令和 8年 1月 10日	～	令和 8年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 27
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い支援と分かりやすい助言をしていること。	分かり易い助言と、専門的視点からの説明に心掛けていること。園で取り入れやすい支援方法を考えて、伝えることを心掛けていること。	実際に使用している視覚支援アイテムの提示を増やし、より実践的な共有を行うこと。
2	保護者・訪問先との連携が密で、情報共有が丁寧なこと。	電話連絡や面談、参観後の懇談会など、複数の接点で情報共有を実施していること。	情報共有の方法を検討し、園や保護者とより連携しやすい方法の検討を行うこと。
3	職員間の協力体制とPDCAの実施していること。	訪問前後の意見交換、記録の共有、研修参加など、職員の学びと改善が継続していること。	支援前後の打合せ時間を確保し、支援の統一性をさらに高める仕組みづくりを行うこと。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問回数・訪問時間の不足していること。	契約者数が多く、訪問件数に限界があること。	訪問枠の見直し、優先順位の設定、ICT化を進め職員の事務時間を削減し、訪問時間を確保すること。
2	支援の統一性に課題があること。	職員の経験・知識の差により、支援の統一が難しい場面があること。	複数の職員による訪問、支援マニュアルの整備、ロールプレイ研修などで統一性を向上させること。
3	訪問先とのカンファレンスや共有の機会が不足していること。	時間調整が難しく、毎回のカンファレンスが実施できないこと。	短時間カンファレンス導入、訪問後の簡易レポート共有など、柔軟な連携方法を検討すること。